

復興の先を見つめて・ これからの塩竈

平成24年は、震災の復旧も進み、復興へ向けて動き出した年でした。「第5次長期総合計画」「塩竈市震災復興推進計画」のもと、新しいまちづくりが始まっています。

今回の新春座談会では、産業・観光・医療と、さまざまな立場のゲストをお迎えし、ケーブルテレビ・マリネットの佐藤愛由美さんの進行のもと、市長・議長とこれからのまちづくりについて、お話しいただきました。

新しい年に向けて

司会 あけましておめでとございます。平成25年の新春座談会、まずは市長からご挨拶いただきます。

市長 あけましておめでとございます。今年も、震災を乗り越え、今まで通りの生活を取り戻す年と考えております。そのためには、まちに活気やにぎわいを、子どもたちに夢や希望を取り戻すことが大切です。震災では、塩竈の歴史や文化を伝える文化財にも被害がありました。未来に引き継ぐべき、塩竈らしい塩竈をつくっていくため、今日はご参加の皆さまに、さまざまな意見・ご提案をいただければと考えております。どうぞよろしく願います。

司会 ありがとうございます。では、ご出席の皆さまにも自己紹介を兼ねて一言お願いいたします。

池野 震災当時は停電し、分娩中の妊婦さんや手術後でまだ麻酔が切れていない患者さんもいる中、津波が来るとの放送もあり、大変な状況でした。これをきっかけに防災対策を院内でも作成しましたので、今後の災害に対する備えはできたかと思えます。

佐浦 昨年は、事業をほぼ震災前と同じまにに戻せたかと思いますが、全国の皆さんから、震災復旧・復興として、清酒の販売に対して多大なるご支援をいただきました。日本人の絆の強さを実感し、感謝いたしております。



池野 暢子 さん
塩竈市教育委員
いけの産婦人科小児科医院院長



嶺岸 淳一 塩竈市議会議長



佐藤 昭 塩竈市長



石川 昨年は観光客数も震災前の8割まで回復しましたが、仙石線はまだ全線復旧しておらず、被害を受けた本塩釜の駅舎も、完全に復旧はしていない状態です。玄関口がこのような状態では、観光客の皆さんにも申し訳ないので、早くきれいな駅舎に戻るようがんばります。

議長 復旧・復興について、いろいろと勉強しながら取り組んでいます。今後の課題としては、交流人口をどうやって増やすか、防災・減災にどう取り組んでいくか、ということがあります。市長とともに、議会もがんばってまいります。

復興の先を目指すもの

司会 それでは、震災を乗り越え、これから塩竈がめざすべきまちの方向性について、それぞれのお立場からご意見をいただければと思います。

議長 やはり、防災・減災にどう取り組んでいくのかだと思います。塩竈は水害が多かったのです、その対策には多くの予算を投じて取り組んできましたが、震災では津波の被害があり、残念でなりません。

しかし、震災時のご支援を通して新しい絆が生まれ、山形県村山市とは、それぞれの学校での行き来も始まります。長野県須坂市などからは先日、ツアーを組み、塩竈にきていただきました。そのようなご支援に応えるよう、議会も団結してがんばってまいります。



佐藤 愛由美 さん
(司会進行)
ケーブルテレビ マリネット



佐浦 弘一 さん
株式会社佐浦代表取締役社長



石川 芳幸 さん
東日本旅客鉄道株式会社
本塩釜駅長



▶震災後初の新酒の仕込みは、全国からも注目されました

◀本塩釜駅前花時計の花の植え替えを、一小の緑の少年団、JRの職員、近くの商店などで行いました



◀中学生と赤ちゃんのふれあい事業では、命の大切さを学びます



佐浦 海外で日本酒を紹介する機会が多いのですが、その際話すのは、そのお酒をはぐくんできた地域のことです。塩竈は、神社に代表されるような古い歴史や、食文化など、豊かな素材がたくさんあります。こうしたものの復旧が、まちにとっても、自分にとっても望ましいことです。

池野 昔のように、子どもがのびのびと走り回れるような環境をつくれなかつと思います。最近、子育て中のお母さんの中に、育児に自信を持ってない方が多いのが気になります。塩竈は、「子育て支援センター」など子育て支援が充実しているの、参加する人々を増やし、ママ友と集まることで精神的な助けになるよう、何かできないか考えています。

石川 今年は「仙台・宮城・デステイネーションキャンペーン（DC）」が始まりますので、JR各社が地域の観光関係者と一体となり、盛り上げていきます。しかし、キャンペーンの主役は市民の方々そのものです。市民が「これは」と思うものが、観光素材になります。「ちいさな旅」という、まちの中を散策するイベントでは、いつも参加者がいっぱい、また「また来たい」という方も多くいます。塩竈が魅力のあるまちだという裏付けだと思えます。DCが終わったあとも来ていただけるよう、情報発信していきます。

議長 昨年の夏に青山学院大学の学生たちが50人くらいボランティアで、野々島のブルーセンターに泊りながら活動してくれました。学生たちは、地元の方々とのふれあいから、人々の喜びや悲しみなどにじかに触れ、塩竈はいいところだと感じてくれたようです。彼らが感じた塩竈の良さを、これからも残していきたいと思えます。

市長 さまざまなご意見をいただき、感謝申し上げます。大震災の際、考えたことは、塩竈はこれだけの大きな被害を海から受けながら、それでも海とともに生きていくだろう、ということでした。「長いあいだ住み慣れた土地で、安心した生活をいつまでも送れるように」が復興計画の基本理念です。

さきほど、絆というお話しをいただきました。震災では、世界中からご支援をいただきましたが、やはり原点はこの地域に住む人との絆だと考えます。災害を乗り越え、前より素晴らしいまちをつくらなければなりません。そして塩竈の素晴らしさを、次の世代に誇りをもって引き継いでいかなければと思えます。

「おいしさ」と笑顔のつどいみなどまち塩竈」を目指して

司会 それでは、第5次長期総合計画で目指すまちをつくるためのご意見などいただけます。

石川 重点戦略として「定住」があげられていますが、わたしたちが観光開発を進めていく中で「住んでよし、訪れてよし」と言われるような地域づくりが非常に重要です。塩竈を「ついのすみか」にしてもよいと思えるくらいの魅力を情報発信していかねばと思えます。

池野 「定住」を促進するには、福祉の充実も大切だと思います。産休や育休をとっているスタッフが、育休あけに保育所がなくて困っていることがよくあります。また、子育てが終わると、今度は親の介護の問題が出てきます。介護のために仕事をやめるスタッフもおり、周囲で助けてくれるような制度が充実してくれれば、と思えます。

佐浦 やはり重点戦略として「交流」がありますが、いかに地元の魅力を発信していくか、ということだと思えます。塩竈から多賀城へ歩いて、歴史を感じさせるスポットなどを盛り込んだルートの開発などいいかと思えます。





▶「イクメン講座」は、育児に参加するお父さんたちに、手遊びなどを指導

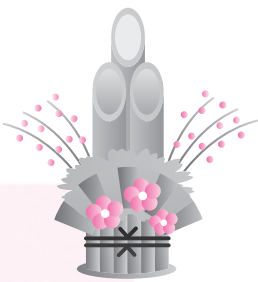


▶浦戸寒風沢では、秋に立派なお米が収穫できました

▶職員派遣などで支援いただいている長野県須坂市から、塩竈へのツアーが企画され、クルーズやまちあるきを楽しんでもらいました



◀塩竈の歴史を学ぶ「塩竈学問所講座」。シンポジウムでは、参加者が熱心に聞き入っていました



また、大きな被害のあった浦戸寒風沢では、田んぼが復興しました。震災で被害を受けたけれど、それを乗り越えている姿を、もつと多くの人に知ってもらいたい。災害の教訓をいかして教育などに活用できるのではないのでしょうか。
議長 塩竈は、いいところだとよく言われます。一番いいのは、病院がいつでもあることだ、と。子どもを育てるにはいい環境です。そんなまちに、人が入ってこないはずがない。定住人口を増やすためには、あとひとひねり、工夫が必要かと思えます。
市長 よく職員には「足下に泉あり」と言っています。地域の宝をもう一度掘り出して磨きをかけていけば、さきほどの「ついのすみかに」という方がもつと出てくるのではないのでしょうか。人がいてこそそのまちなので、暮らす人の生活環境をどうするかを、考えなくてはなりません。しっかりと力を入れていきたいところです。市民との絆を太くしていくのが行政のつとめだと感じています。

塩竈の魅力を発見・発信

司会 いろいろなお話し、ありがとうございます。では、最後に一言ずつお願いいたします。
石川 DCに向けて、駅の係員も勉強中です。案内する立場の人間が何も知らないわけにはいきませんので、自分たちが率先してまちを歩き、地元の方にお話しを聞いて、塩竈の観光のプロとしてお客様を迎えたいと思います。
池野 産科というのは、危険と隣り合わせの医療です。常に安全な医療を提供できるよう、日ごろからの心構えが大切です。当院では、年に2回、防災訓練を行っています。マニュアルだけではなかなか頭に入ってきませんが、体を動かしての訓練なら効果があります。市でも、さまざまなおところで訓練を行い、災害に備えていただきたいと思えます。
佐浦 昨年5月に、日本酒と焼酎を「國酒」とし、官民が連携して輸出の拡大を目指すプロジェクトが動きだしました。内閣府に「國酒を築もう推進協議会」が立ち上げられ、わたしもそのメンバーとして関わりましたが、プロジェクトの中で、地域振興や観光推進のひとつとして、「酒蔵ツーリズム」というものも提案しています。酒蔵を訪ねてもらい、地域の食文化などに楽しんでい



ただくかを考え、取り組んでいきたいと思えます。
議長 今まで、遠い地域の方々も、興味があってもなかなかこちらまで来られなかったようです。今度のDCでは、今まで来られなかった地域の人々にも来ていただき、塩竈の魅力を感じてほしいと思います。
市長 本日はお忙しい中、ご出席いただいで感謝申し上げます。皆さまからは、今後5年、10年先の塩竈をつくっていくためのご提案をいただきました。「定住」「連携」「交流」を推進するため、福祉の充実、DCや文化・歴史などの魅力の発信による交流人口の増加と、定住に向けての働きかけなど、市民と絆を結びながら、訪れてよかった、住んでよかったと思っただけの塩竈になるよう、努めてまいります。